

平成30年度 門川町立門川中学校 学校評価書

学校の教育目標	○ 人間尊重を基調として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。			
めざす生徒像	(1) 向上心に燃え、自ら学ぶ生徒(知) (2) 思いやりと奉仕の心のある生徒(徳) (3) 心身ともに健康でたくましい生徒(体)	めざす教師像	(1) 夢をもち、教育愛に燃え、使命感に徹する教師 (2) 自ら研修に努め、実践する教師 (3) 生徒・保護者・地域の人に信頼される教師	めざす学校像 (1) 知性・徳性豊かで生き生きと動いている学校(敬愛) (2) 明るく楽しい学校(協同) (3) 静かで美しい学校(勤労)
学校経営ビジョン	教職員相互のパートナーシップを基盤に、生徒一人一人のためになる、教育活動をよりよく創り、生徒が「夢と希望」をもって生き生きと生活する学校を構築する。			
評価項目	取組状況	達成状況	学校関係者評価委員会意見	今後の方策
1 学校経営	○ 学校の教育目標・方針は、地域や生徒の実態を的確に捉え、保護者のニーズを反映したものになっているか。			
学校管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標や方針については、入学式、PTA総会、参観日等の場で説明したり、校長室だより、PTA新聞等を配付したりして、保護者等への啓発を行った。 また、全職員の共通理解のもと目標達成に向け取り組んだ。 	<p>保護者への調査結果</p> <p>【学校の教育方針に関心をもつ】 全体 78% 1年 76% 2年 79% 3年 82% 【本校で生活させてよかった】 全体 88% 1年 82% 2年 89% 3年 94%</p> <p>教員の自己評価の結果</p> <p>【生徒は学校生活を楽しんでいる】 H30 3.1 (H29 3.3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校長室だよりで定期的に学校の様子を発信している。 授業参観や学校行事などに、保護者や地域住民の積極的参加が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標や方針については、年度当初の説明が重要であるので、PTA総会に時間を設定する。
2 学力向上	○ 生徒は学力を向上させるために、主体的に授業に参加しているか。また、教師は生徒が意欲をもって取り組む授業を実践しているか。			
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上を図るために、全国学力・学習状況調査やみやざき小中学校学習状況調査等の結果を分析し、特に、平均点以下の生徒の学力向上を目指し、授業改善に取り組んだ。 定期テストに活用問題を取り入れ、生徒の活用する力を養うように工夫した。 	<p>全国学力・学習状況調査やみやざき小中学校学習状況調査等の結果は、県の平均に達していないが、少しずつ県平均との差が小さくなっている。</p> <p>保護者への調査結果</p> <p>【子どもの学力は向上している】 全体 53% 1年 52% 2年 41% 3年 68%</p> <p>教員の自己評価の結果</p> <p>【生徒の学力は向上している】 H30 2.5 (H29 2.6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観を通じて、学力向上に対する教員の日頃の努力が感じられた。 体育大会、秋桜祭は、どの学年もやる気を感じた。クラスが一致団結して学校コンクール等の行事に取り組む気運を継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力の向上のためには、読解力を高める必要があるので、教科書の内容をきちんと読み取れる力を育成する手立てを国語科を中心にしながら、全教科の授業で取り組んでいく。
授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が、年1回以上は研究授業に取り組み、授業力の向上に努めた。 各種学力調査結果の分析や指導方法の工夫改善についての情報交換を行うなどして、教科部会の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業がわかりやすいと回答した保護者の割合が、昨年度より10ポイント下がった。教員は努力していると考えているので、保護者との認識の乖離が見られる。 <p>保護者への調査結果</p> <p>【授業が分かりやすいか】 全体 53% 1年 52% 2年 44% 3年 65%</p> <p>教員の自己評価の結果</p> <p>【生徒に分かりやすい授業づくりに努めている】 H30 3.3 (H29 3.1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保護者も一歩前進して、「子どもの学習意欲を高める授業」を望む、参観していると感じた。 教員のやる気を見せる姿勢が、生徒の力を引き出す要因となると考えるので、これからも頑張してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業力の向上を図るために、教科の枠を超えた授業研究グループを作り、研究授業の前の事前研究会の充実を図る。

3 生徒指導	○ 生徒は、きまりや時間を守り、あいさつをきちんと行うなどの生活態度がしっかりしており、安心・安全に学校生活を送ることができているか。			
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 毎週、生徒指導委員会を開催し、指導体制を共通理解するとともに、生徒に寄り添う生徒指導の充実に努めた。 生徒会の活性化を図り、各学校行事で、生徒自らが自治的な活動ができるように支援した。 毎月実施している生活アンケートを活用し、生徒が楽しく、学校生活を送れるように努めた。 	<p>保護者への調査結果 【学校は生徒指導に力を入れ、その成果が上がっている】 鉢 68% 俣 66% 俣 63% 俣 77%</p> <p>教員の自己評価の結果 【生徒会活動は充実したものになっている】 H30 2.9 (H29 3.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の評価はわずかだが上昇している。しかし、教員の評価は下がっており、更なる活動の充実に求めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に中学生がリーダーとなり、小学生の指導をしてくれる姿が見られた。 中学生が地域に溶け込んでくれることは大変喜ばしいことである。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校のタイプ別の対応を協議するとともに、相談室利用の見直しを行う。 心因性の不登校が増えているので、学校外の施設の設置について、町教育委員会へ働きかけていく。
基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 無言清掃の徹底を図り、校内の清掃活動の充実を図っている。 P T A と連携し、「子どもの成長を支え育む“かどがわ4か条”」に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 無言清掃に取り組むとともに、校内の環境整備を図った。 喫煙、触法行為等を起こす生徒が数名おり、警察やその他の関係機関と密に連携し、保護者や生徒に生活改善指導を行い、安心・安全な学校生活を送れるように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつをしてくれる生徒が多くなった。 服装の乱れも少なくなった。 校内がきれいに清掃されており、特に、靴箱の整理整頓は素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の指導だけでなく、生徒間の指導ができる環境をつくっていくために、生徒会活動・専門委員会活動の活性化を図る。
4 心の教育	○ 誰にでも思いやりをもち、人権感覚を高めるための指導や、いじめや差別は何があっても絶対に許さないという、心の教育に力を入れているか。			
望ましい人間関係などの心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間や学級活動などを通して、心で考える大切さを学ばせ、実践できる力を身に付けさせる指導を行った。 人権教育の時間を設定し、一人一人の人権感覚を高める取組を行った。 道徳の授業研究に取り組み、「特別の教科「道徳」の在り方を研究し、町内の小・中学校に公開した。 	<p>保護者への調査結果 【学校は人権教育の推進に力を入れている】 鉢 71% 俣 70% 俣 63% 俣 83%</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員研修で、Q-U検査の分析や活用方法について研修し、学級の生徒の状況を把握し、指導に生かした。 考え議論する道徳を目指し、道徳の授業研究に取り組み、生徒の道徳性を高める努力をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界人権デー等、マスコミでも取り上げるので、「心の教育」「人を思いやる力」「人権啓発強調月間」「人権週間」等を、家族と話し合う好機としてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめのない学校を目指し、生徒会を中心に「いじめゼロ宣言」に向けて、計画的に心の教育に取り組んでいく。
5 地域社会との連携	○ 学校行事等を通して、地域社会や家庭等と連携を図りながら、地域の方々や保護者から信頼されるよう、開かれた学校として機能しているか。また、地域の人材を学校行事や教科指導等において積極的に活用しているか。			
地域社会との連携を図り、開かれた学校としての機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> P T A 総会、参観日、参観週間、家庭訪問、地区懇談会、各種通信等を通して、学校の教育目標や方針、教育活動等について、保護者や地域社会への啓発を行った。 地域人材を活用し、地域体験学習や職場体験学習、「社会人よのなか教室」、ボランティアによる読み聞かせを実施した。 1年生の数学に、地域の数学支援ボランティアの協力をいただき、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。 	<p>保護者への調査結果 【学校は保護者とのコミュニケーションを大切にしている】 鉢 76% 俣 73% 俣 72% 俣 85%</p> <p>【学校は地域活動へ積極的に参加し、地域との連携を密に図ろうとしている】 鉢 71% 俣 66% 俣 70% 俣 78%</p> <p>【学校は、保護者および地域社会に信頼されている】 鉢 74% 俣 66% 俣 72% 俣 85%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の地区懇談会の取組はよかったが、地区ごとの間隔が狭かったので、広く間隔を取り、話がよく聞き取れるように配慮してほしい。 地域の人材を学校で生かす活動を、今後も続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度のコミュニティ・スクールのに向けて、学校運営協議会の設置に向けて、関係者との協議の場を設定する。 「ようこそ先輩・よろしく先輩」の充実を図るとともに、さらに地域の人材が学校教育の中で活用する取組を研究していく。